

(第1回)

技術系中小企業等事業深化研究会

## 技術系中小・中堅企業の事業の深化に必要な課題を探る

### 日本開発工学会からのメッセージ

企業が自立し発展していく過程には「乗り越えるべき壁」が存在すると言われています。例えば売上が10億、100億、1000億円と拡大するステップで壁にぶつかり、これを乗り越えないと次に進めないと考えられます。本研究会では技術開発型企业に着目し、中小企業から中堅企業へと成長し事業を深化させていくに当たり「壁」とはどのようなものであるのかを探り、可能であれば提言に纏めたいと考えています。

### 研究会責任者・コーディネーターからのメッセージ

◆ 「技術系ベンチャー叢成ワークショップ」でその自立支援の課題を整理したところであるが、自立を始めた技術開発型中小企業が、地域に貢献しグローバル化に対応できる中堅中小企業、中堅企業へと成長していくために必要な、「壁」を乗り越えるための課題を整理したい。

◆ 米国シリコンヴァレーモデル、ドイツMittelstandモデル、日本非系列・脱下請け自立モデルの3つを比較しつつ、中小企業・中堅中小企業・中堅企業へと変化していく過程において、3つのモデルに共通のモノ、モデル独自のモノを抽出して、乗り越えるべき壁とは何か、あるいは不動に維持すべきものは何かを考えて行くこととする。

研究会責任者・コーディネーター 余田幸雄

## □ 第1回目 プレゼンターと課題提起

### 技術系中小企業の成長戦略とその課題 — 企業内外の視点で感じたこと —

大屋 貴雄 氏

(中小企業支援行政から、技術系中小企業のCFO・知財ファンド担当を経て、年商10億円の半導体企業の幹部として昨年6月TOKYOPROMarket上場に関わった経験から)

□前半はコーディネーターから、深化の捉え方、3つのモデルの考え方、中小企業・中堅中小企業・中堅企業の考え方、現時点における検討の視座等について説明。

□次回(4月)は、NewGras, LLC 坂本 明男氏から、シリコヴァレーモデルについて、起業から事業売却までの経験に基づくプレゼンを予定。

●日時:2018年2月8日(木) 18:30~20:30

●場所:東京理科大学(神楽坂キャンパス)理窓会館第1会議室

(〒162-0825 新宿区神楽坂2-6-1 PORTA)

●参加費:会員1,000円、非会員2,000円

●定員:最大35名(定員になり次第締め切ります)

●申込方法:FAX(03-3350-9102) またはEメール(office@jpmot.org)にて、氏名、所属、住所、電話番号、Eメールを明記して、お申し込み下さい。

●略歴

プレゼンター— 大屋 貴雄

91年福岡県庁。99年から01年JETROサンフランシスコ勤務。01年から04年県財団にてベンチャー支援活動。04年県退職後、数社の技術ベンチャーにて財務・営業等を担当。知財ファンド担当として活動。14年から東京に活動拠点を移し、現在、(株)トリプルワンの企画・管理部長として活動し、昨年6月TOKYOPROMarket上場を実現。

責任者・コーディネータ 余田幸雄

1973年京都大学法学部卒業。通商産業省入省後1978年に研究開発型企業育成センター(VEC)に関わり、その後幾つかの技術関連部署に勤務。1997年6月JETROサンフランシスコ所長に就任。シリコンヴァレーにおけるJETROインキュベーターの創設や我が国の民間の機関との連携等若手進出の環境整備に関わる。2000年通産省を退職。2002年から2007年前半まで京セラにてM&A、ヴェンチャー投資を担当。同年後半からタスク・ヨダとしてヴェンチャー企業支援活動を行う。



東京都新宿区神楽坂2-6-1  
PORTA神楽坂

飯田橋の「神楽坂下」の交差点を、神楽坂の通りを上がり左側のPORTA神楽坂と言うビル内。  
当ビルは商業ビルで一階は飲食店、地下はサイゼリア。  
ビルの真ん中が吹き抜け風の通路になっており、通路の左側に「東京理科大MOT/イノベーション科・理想会館」の表示があり専用のエレベーター。

<申し込み> 第1回技術系中小企業等事業深化研究会(2月8日)と明記の上、下記項目に記入の上、FAXまたはeメール(office@jpmot.org)でお申し込み下さい。

●氏名： \_\_\_\_\_ ●所属： \_\_\_\_\_

●住所： \_\_\_\_\_

●電話番号：( ) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ ●eメール： \_\_\_\_\_